

背の取れた本の修理

～簡便な方法～

ハードカバーの資料で、溝の部分が切れかかっていたり、背の部分だけが取れてしまったりしているものがあります。その修理方法としては背の部分を作り直す「つなぎ表紙」の方法がありますが、ここでは、簡便な方法を紹介します。

この方法による修理を選択する場合、「つなぎ表紙」による修理より強度が劣ることを考慮する必要があります。

手順

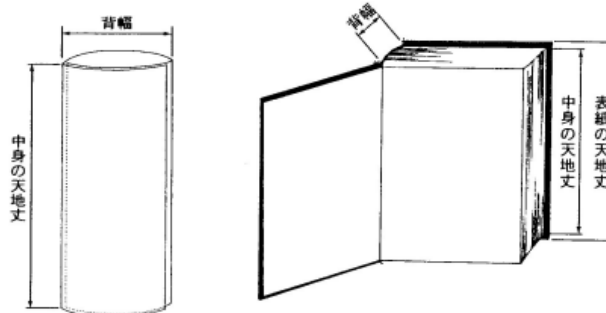
1 背を開く

背が取れかかっているものは、カッターナイフやハサミを使って、溝の部分で表紙と切り離す（片側だけでもよい）。

中身の背の部分で、剥がれかかっているところは取り除いてしまうか、きれいに糊付けしておく。花布もきちんと付けておく。また、取れた（取れかかった）背の裏についてもきれいにしておく。薄くなってもよい。

2 クータを作る

クータは中性紙で作る右図のような筒を平らにしたものである。背幅の3倍の紙を三つ折りにして、重なる部分を貼り合わせて作る。



3 クータを背に貼る

クータの片面（一重の側）に糊をまんべんなく塗って、中身の背に貼る。

4 背を貼る

クータのもう一方の面に、取れた（取れかかった）背を貼る。その上から白紙を当てて、ヘラなどを使ってよく擦り、しっかり接着する。その後、よく乾かす。乾いたら、溝部分に和紙を貼ってもよい。

背の一部がはがれている場合



資料の天の部分に指をひっかけて資料を取り出していると、背の上部だけが壊れてしまうことがあります。ここではクータを応用して修理する方法をご紹介します。

手順

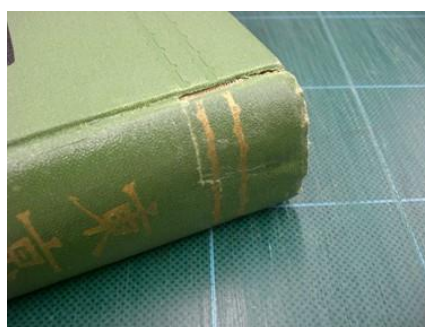
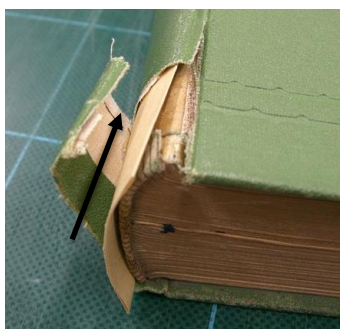
1 小さなクータを作る

背幅の3倍の紙を三つ折りにして、重なる部分を貼り合わせて作る。クータの長さは破損している部分より少し長めにする。



2 クータを背に貼る

クータの両面に糊をまんべんなく塗って、背に押し込む。溝の部分にも糊を塗り、はがれた背をかぶせる。ヘラなどを使ってよく擦り、しっかり接着する。その後、よく乾かす。



3 完成

